

日本人学校・補習授業校 タマテバコ

トビラを開けたら、いろんなものが見えてきた……

補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発



海外子女教育振興財団 教育相談員(元啓明学園初等学校、中学校高等学校校長) 佐々 信行

AG5の研究テーマ4は「補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発」です。このテーマでは、ダラス補習授業校(アメリカ)に「研究提携校」になっていただき、いっしょに研究を進めることになっています。11月にプロジェクトチームのメンバーがダラスを訪問し、具体的な活動が始まりました。現在までの取り組み状況について報告させていただきます。

日本人学校・補習授業校への期待

AG5プロジェクトの三つの課題は、第一に「海外に在住する子どもたちに高度なグローバル人材としての基礎力を育成すること」、第二に「日本人学校・補習授業校における日本語教育を向上させるための総合的な取り組みをすること」、第三に「在外教育施設が日本文化の発信の拠点としての役割を果たせるようにすること」です。

このなかで第一、第二の課題に関しては、帰国して日本の学校に戻る児童生徒に必要な日本語の力をつけると同時に、帰国する前提でない子どもたちの日本語の力もそれぞれにしっかりと伸ばしていくということを目指さなければなりません。それが可能なら、在外教育施設が日本文化の発信拠点として力を発揮することにもつながるでしょう。

関係者のかたがたは「そんなことはずっと前からわかっている」と言われるでしょう。しかし、文部科学省の事業として正面から取り組むところまでできたことは、やはり画期的だと思います。

補習授業校のプログラム

テーマ4を担当するチームのメン

バーは、いろいろな立場で補習授業校や日本語教育にかかわっています。専門分野は、補習授業校教育、日本語教育、英語教育、異文化間教育、教育社会学などですが、多くは複数の分野での経験を持っている人たちです。

チームではまず、それぞれの経験を踏まえ、どのようなプログラムが有効なのかを話し合っただけで基本的な考えをまとめました。

①プログラムの基本的なイメージ
いろいろなレベルの日本語能力の児童生徒が共に学び、それぞれに力を伸ばすことができることを基本コンセプトとする。

②期待できる効果
・日本語能力の向上
・子どもたちの日本語学習への意欲・満足度の向上
・補習授業校からの脱落者の減少
・保護者の満足度の向上

・教員の負担軽減
③目的達成のために必要なこと
・講義型・知識伝達型ではなく児童生徒の活動を重視する学習形態とする。

・児童生徒の言語の発達段階を踏まえる。
・知的な発達段階にふさわしい内容を扱う。

・教科学習を通して日本語能力を向上させていく。
・教員に大きな負担を負わせない教材を開発する。ICTの活用も考える。

立場の違うメンバーが集まっても、プログラムの中身および作成方法について大きな意見の隔たりはありませんでした。おそらく補習授業校関係者の多くのかたがたにも共感していただける内容だろうと思います。

そして、この考えをもとに、ダラス補習授業校と実際の授業を組み立てる作業を始めることになりました。

プロジェクトチーム、ダラス補習授業校を訪問

十一月上旬、プロジェクトチームのメンバーがダラス補習授業校を訪問しました。

実際に教室を訪問してみると、子どもたちが主体的に活動する授業がたくさん展開されていました。子どもたちの実態を踏まえて考えれば、必然的に活動を重視する学習形態が中心になるのだと感じました。多様な児童生徒に対しては、講義型の一斉授業では間に合いません。

国内の学校では子どもたちの力の違いが補習授業校ほど大きくないのに、先生が一方的に講義するような



ダラス補習授業校に訪問した際に行われた教員の研修会

昔ながらの授業でもなんとか成り立ってしまいます。新しい時代に合った授業の必要性が叫ばれながらも学校がなかなか変化しているように見えないのはここに原因の一つがあるように思われます。そのため、補習授業校からの発信は、国内で教えている先生がたがよりよい授業をつくっていくために貢献する可能性も十分に持っているといえるでしょう。

今回の訪問では、次のようなことを共有し、デジタル教科書のデモンストレーションも行いました。

・補習授業校の児童生徒は、対人関係力、自己表現力、外国語能力など「グローバルな能力」を育てるために恵まれた状況にある。それ

は帰国生の調査等によっても確かめられている。

・日本語能力が異なる児童生徒が共に学び、それぞれ力を伸ばすには「アクティブラーニング」が有効である。具体的な指導法として、ジグソー法(*)などがある。

・日本国内での外国人児童の指導で、「教科と日本語の統合学習」が効果を上げている。

最初の授業実践

今年度はまず、小学四年生を対象に、一つの単元を設定して計画をつくり、十二月から一月にかけて実施することにしました。最初に四年生を選んだのは、発達段階から考えて授業の工夫による効果が上げやすいと考えたからです。

英語で母語を確立した児童であれば、日本語の力が弱くても、たとえば英語で調べたことを日本語で発表するなどして、日本語が強い児童といっしょに学習活動を行うことが可能です。

各学年の先生がたからは、目の前の子どもたちの力を少しでも伸ばしたいという切実な訴えがありました。が、ことを意図的に学ぶ段階に達していない幼児の場合は授業の工夫だけで効果を上げることは難しいと

思われます。一方、上の学年になると学習内容のレベルが上がり、ハードルが高くなります。取りかかやすいところから始めて、そこから対象を広げていくのが現実的ではないかと考えました。

単元名は「発見！ わたしたちのテキサス、わたしたちの都道府県」に決まりました。十二月の第一章では、テキサス州について調べたことを伝える学習活動を行います。一月の第二章は国語の報告文を書く単元と連動させて、「自分とかわりのある地域の特色やよさを伝えよう」という課題で学習を組み立てます。

この学習は国語科として扱うことも可能です。その結果を関係者間で共有し、よりよい内容にする検討を進めます。

補習授業校のネットワーク

これから、ダラス補習授業校とプロジェクトチームとでさらに学習指導計画を作成するなどの作業をしていきますが、すでに各地の補習授業校には、日本語の能力向上のための知恵やアイデア、そして経験が種々あると思います。我々としてはより多くの補習授業校にご協力いただければ、より大きな成果を上げることができると考えています。

世界各地の補習授業校で、ダラス補習授業校と同様の活動を一部でも試行していただく、別の角度からご意見をいただく、すでに行っている学習の情報をお知らせいただくなどのご協力がいただけると助かります。ぜひ、よろしくお願い申し上げます。

ある先生は、「いま同じことを教えている先生と話がしたい」とおっしゃっていました。あまり大きくない補習授業校では、同じ学年のある教科を担当する先生がひとりしかないという場合が珍しくありません。まったく経験のない内容を教えなければならぬこともあります。補習授業校同士で効果のある指導法を交換し合えれば、もっと効率のよい授業準備ができ、子どもたちが楽しく日本語を学ぶ環境に向かって前進するでしょう。

AG5プロジェクトではICTを活用したネットワークづくりにも取り組んでいきます。補習授業校の関係者の皆さん、補習授業校としてご協力いただける場合は、ぜひプロジェクトチーム(somu@joss.or.jp)までご連絡ください。

*ジグソー法 協同学習を効果的に進める手法として「知識構成型ジグソー法」が注目されている。学習者が主体的に活動するように構成されたステップが特徴。